



- 山火事に注意を！**
- 山火事は、一度起こると広い範囲の森林が失われ、大きな損害をもたらします。山火事を防止するために、次のようなことに注意しましょう。
- ▼枯れ草などがあり、火災が起きやすい場所では、たき火をしない
 - ▼たき火の場所を離れるときは、完全に消火する
 - ▼強風や乾燥しているときは、たき火、火入れをしない
 - ▼火入れの許可は必ず受ける
 - ▼たばこの吸いがらは、必ず消して、投げ捨ててしない



vol.22

三月二日(月)～七日(日)まで
春の全国火災予防運動
実施中!!

市消防本部
☎030123



▼火遊びはしない

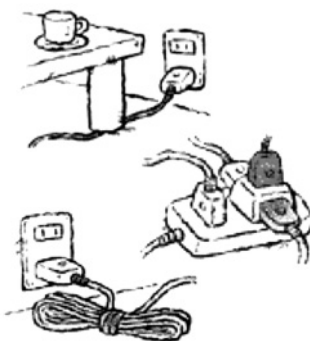
火入れとは、山林・原野などで、造林のための地ごしらえ、開墾準備、害虫駆除、焼畑などのための行為です。

電気製品からの出火を防止しましょう

住宅火災などの原因として、電気製品から出火したケースが多くあります。

そのような火災を防止するために、次のようなことに注意し、安全に使用しましょう。

- ▼コードを傷んだまま使用しない
- ▼コードに重い物をのせない
- ▼コードを束ねない



- ▼プラグに「ほこり」をためない
- ▼たこ足配線をしない
- ▼延長コードは、容量に合ったものを使用する
- ▼熱を出す器具は、使い終わったらプラグをコンセントから抜く

土岐市のホームページに、「春の全国火災予防運動実施要綱」が掲載されています。あわせてご覧ください。

また、住宅防火対策推進協議会のホームページ (<http://www.jubo.go.jp/index.html>) では、住宅防火に関するいろいろな情報がご覧になれます。

知って得する

No.5

暮らしのアドバイス

子どもの誤飲③ ～小さな異物の場合～

好奇心が強い幼児は、何でも口に入れてしまいます。子どもの小さな口やのどは意外に柔軟。おもちゃのミニカーを丸ごと飲み込んでしまったという例もあり、大人が目配りが大切です。

小さなボタンなどの異物を飲み込んだ場合、ほとんどがそのまま大便と一緒に排せつされるので、さほど心配はいりません。しかし、むせたりせき込んだりしているときは気管に入ったおそれがあるので、すぐに病院で診察を受けさせましょう。呼吸困難や窒息の症状がある場合には、すぐ救急車を呼んでください。

画びょうやホチキスの針など、尖ったものを飲み込んだときは、無理に吐かせるとのどや食道を傷つけてしまいます。吐かせず、静かに病院へ運んでください。

水性絵の具は、少しくらいなめても心配はありません。

しかし、油性絵の具は中毒の危険があるので、水を飲ませて(牛乳はだめ)吐かせ、すぐに病院へ。クレヨン、水か牛乳を飲ませて吐かせ、様子を見ますが、ほとんどの場合、害はありません。

電池を飲み込む事故も多発しています。中でも危険なのが、ボタン電池。大便と一緒に排せつされることもあります。食道や胃の中で止まってしまうと放電したり中身が漏れて粘膜が傷ついたり、最悪の場合は胃に穴が空くことも。子どもが電池を飲み込んだら、すぐに病院へ連れて行き、適切な処置を受けさせましょう。

意外に危険なのが、ピーナッツなどの硬い豆類。かむと細かくくだけ、小片が気管に入ってしまうと、肺などに炎症を起こすことがあります。硬いナッツを子どもに与えるのは避けてください。もし口にして、むせたりせき込んだりする場合は、病院へ連れて行くようにしましょう。

